

第47回アメリカブドウワイン学会年次大会参加記

近畿大学農学部

米 虫 節 夫

47 th Annual Meeting of the AMERICAN SOCIETY for ENOLOGY and VITICULTURE (第47回アメリカブドウワイン学会年次大会)が、1996年6月26～28日に Nevada 州 Reno 市の Reno Hilton ホテルで行われた。なお、年次大会に先立つ24～25日に Wine/Health Symposium (ワインと健康に関するシンポジウム)が行われた。筆者は昨年と同様に山梨大学の横塚弘毅先生と共に、これに参加した。横塚先生と筆者との旅程は、6月25日出発、25～28日 Reno Hilton ホテルにおいて学会に参加、その後カリフォルニア州 Davis に周り、7月1日帰国である。ASEV 年次大会参加もこれで3回目となった。以下に筆者の独断と偏見による印象などを書かせてもらう。

会場となった Reno Hilton ホテルは空港から近く、US 395号道路と Truckee River 添いのホテルであり、Reno 市の中心街からは少し離れている。ホテルのチェックインチェックアウトのカウンターの前のロビーがカジノになっており、時間つぶしは喫茶ではなくバクチをどうぞという建物の構成である。一度ホテルに取り込んだ客には、余程のことがない限りホテル内で生活し、お金を落としてもらおうという商魂むき出しとも思えるホテルであった。幸い(?)筆者は今回、カジノも、バーも、クラブも、ショーへも行かず超まじめな(?)数日を Reno で過ごした。

第47回年次大会は、昨年日本部会の年次大会に際して来日し、特別講演をしていただいた Michael Martini (President 1995-1996) が大会会長となって行われた。今大会の特徴の一つは年次大会の前に the Society of Medical Friends

of Wine との共催で行われた Wine/Health Symposium であり、大会の目次にはこのシンポジウムの正式名が“Wine in Context: Nutrition, Physiology and Policy”となっている。大会会長の Wellcome Address では、今大会は51の sessions についてポスターと口頭で発表されるとなっているが、昨年と比較して、発表件数は少し少ないように見受けられた。一方、展示のブースは大変多いように思えた。大会会長の意向によるものだろうか。

Technical Session の発表件数はポスター19件、口頭31件合計50件であった。enology 関係のポスターセッションは26日、Viticulture 関係のそれが27日に行われた。日本からの発表は、次の3件であった。詳しい内容に興味のある方は直接発表者に連絡してください。

Yasusi FUKUDA: Effects of Organic Acids Upon Fusel Alcohol Production”

Koki YOKOTSUKA, Michikatsu SATO, Noboru UENO and Vermon, L. SINGLETON: Color and Sensory Changes in Merlot Red Wine During Prolonged Pomace Contact”

Michikatsu SATO and Takaaki YANAI: Isolation and Properties of β -Glucosidase Produced by *Debaryomyces hansenii* and Its Application in Winemaking”

Wine/Health Symposium シンポジウム “Wine in Context: Nutrition, Physiology and Policy” では、共催者である “the Society of Medical Friends of Wine” という名称の団

体が存在することに驚いた。多くのワイン関係者の知る団体で筆者の不勉強を露呈したものか、ワイン関係者にもそれほど知られていない団体かは知らないが、色々の学会があるものだと感じた。大会目次から以下にこのシンポジウムで発表されたタイトルなどを示しておく。24日に行われた口頭発表は次の通りである。

D.Pittman: Alcohol Abuse & Alcoholism

R.Walzem: Heart Disease- Atherosclerosis/
Antioxidants

J.Follts: Heart Disease- Thrombosis/
Platelet Aggregation

S.Ebeler: Cancer

L.Bisson: Ethyl Carbamate

V.Mainkovich: Allergic Reactions to Wine

M.Daeschel: Headaches and Amines

A.Bakalinsky: Sulfur Dioxide

K.Fugeisang: Microbial Safety of Wine

D.Whitten: Fetal Alcohol Syndrome (FAS)

E.Holmgren: Why Wine Can be Part of a
Healthy Diet and Life-Style

以上の発表は、1人25分持ちなので20分発表5分
討論だったのでなかろうか。

先般来ワインと高血圧の関係については、ト
ピックスとして多くの記事がでたが、上記の発表
分野の広さには少し驚かされた。しかし、ワイン
にはアルコール的側面も存在するのであるから、
その面からも考察すると百薬の長の効果としてう
なずける。

25日は前日の発表を受けて1日かかり(9:00
am ~ 4:00 pm)のパネル討論会が行われた。
主題は、Public Policy Forum: Shoud Wine
be a Recommended Part of The US Diet? だ
である。パネラーとしても、各分野から多くの人を
集めている。

司会者: D.Heath, Ph.D Brown University
パネラー

R.C.Ellison, M.D. Boston University

G.Hacker, J.D. Center for Science in the
Public Interest

M.H.Criqui, M.D. University of
California, San Diego

A.Brodsky, Massachusetts Mental Health
Center, Harverd Medical School

R.Harding, U.K. Ministry of Agriculture,
Fuisherries, and Food

W.T.Earle, Bureau of Alcohol, Tabacco,
and Firearms

E.Kennedy, Ph.D. US Department of
Agriculture

時間配分は、午前中はパネラーからの発表があ
り、午後の2時間を質疑応答に当てている。かな
り贅沢な時間配分といえよう。最終的にどのよう
な結論になったかは、聞いていないが、いつかこ
のシンポジウムの成果は現れてくるだろう。

Technical Projects Committee Seminars
としては3つの話題が取り上げられた。

1. Aspects of Winery Sanitation and
Wine Spoilage
2. Applications of Technology in the
Vineyard and Winery
 2. 1. Winery Processing
 2. 2. Phenol
 2. 3. Geographic Information Systems
3. Potassium in Grapes & Wine

筆者の専門分野が殺菌消毒分野であるので、26日
に行われた1番目のセミナーに出席した。コー
ディネーターは R.Gahagon (ATF) で、司会
は K.Fugelsang (California State University,
Fresno) で行われた。演題は次の4題あった。

1. L.Bisson: Wine Spoilage Organisms--
Their Significance--Favorable as well
as Unfavorable Environments
2. M.Bannister: An Independent
Laborator's Role in Trouble-Shooting
Wine Microbiological Problems

3. N.Goldschmidt: One Winery's Perspective on Cellar Sanitation, Use of Sanitizing Agents and Inhouse Sanitation and Microbiological Quality Control

4. G.O. Dell: One Winery's Perspective on Bottling Line Sanitation and Microbiological Quality Control

英語の聞き取りには自信のない筆者であるが、スライドやOHPの画面などから判断するとき、筆者らが講義しているレベルでそれほど目新しいことを言っているようには見えなかった。なお、この会の発表を録音したテープが翌日売られていたので、購入してきた。カセット2本(3時間分)で\$14.00だった。さすがにうまく録音されているが、まだ、少し聞いただけである。勿体ない買い物になったかも知れない。

25日の夜、Board of Directors ReceptionとBoard of Directors Dinnerが行われた。毎年行われており、日本支部からはExecutive Directorの横塚先生が出席されていたが、今年は、大会会長M.Martini氏などのご配慮で、筆者も出席させていただいた。多くの過去の会長、現在の役員などが出席し、日本にお招きし講演してもらった懐かしい顔もかなり居られた。M.Martiniご夫妻に迎えられ、しばらくの間ワインなどを賞味した後、夕食会があり、その途中から、M.Martini氏の挨拶と出席者の紹介があった。後は会の運営に関する報告、次期会長、次期大会の報告など事務的な報告が続いた。日本を出発して、時差調整がまだできていない状態だったので、最後のコーヒーとデザートは遠慮して、途中退席した。過去の役員らに対するご苦労さん会と現在の事務連絡会議的な感じがした。

28日の午後、Technical Projects Committee Luncheon & Meetingが行われ、今回はこの会にも出席した。準備されていたプリント類には多くの議題・事項が書かれていたが、議論の中心は

来年の会の日程をどのようにするかであった。これは、来年の年次大会の日程が6月30日～7月2日(SAN DIEGO)までになっているが、National Holidayである独立記念日が7月4日なので事務的な会なども3日にはするべきではないなどの議論であった。来年は日本支部から年次大会参加ツアーを予定しているので、早く日程などが確定してほしいものだ。

今回の旅ではRenoにいる間中、東京農大の柳田教授(本年度の日本支部年次大会会長)のご子息(ネバダ大学政治学部大学院在籍中)に車による送り迎えや食事の場所のセッティングなど色々とお世話になった。ありがとうございます。またネバダ大学理学部で研究している古谷博士にもお会いし、夕食と一寸一杯を共にいろいろなことを教えてもらった。その話の中で特に興味を覚えた生物農薬に関する話を、本号に寄稿してもらった。原稿料の出せない貧乏学会誌に投稿していただいたことをここに謝しておく。

昨年と同様に写真を少し掲載しておく。写真1はReno Hiltonの外観全景。2はHilton入り口にある奔馬の像前での記念撮影。3は会場入り口。4はASEVの展示ブース。5～10はBoard of Directors Reception & Dinnerの点景。11はTPC Seminar: Aspects of Winery Sanitation & Wine Spoilageの会場風景。12はTechnical Projects Committee Luncheon & Meetingの座長グループ。13は、横塚先生、佐藤氏らとの会場での記念撮影。14は日本人参加者らとの夕食会。15はPyramid Lakeのピラミッド。6月27日の午後、柳田さんの車でReno市の北北東約50マイルにあるPyramid Lakeまでドライブした。その帰途、Reno市の中心(写真16)を通ってもらった。

RenoからDavisまで柳田さんに送ってもらったが、その途中で見たLake Tahoe(写真17)、そこでの記念撮影の時美女がポーズをしてくれた

(写真18)。

29日、Bradley Alderson氏から Woodbridge の自分のワイナリーを見に来ないかと勧められたので、喜んで見学させてもらった。Davis の我々の宿舎まで迎えにきてもらい、自社のぶどう園をいくつかまわる。Woodbridge は、Sacramento へのブドウや果物の供給地区だという。ブドウ畑を見る。1年毎に順番に植え替えているとて、若い苗樹の多いところを見た。Pest control には気を使い、コンポストなども積極的に使っているという。しかし、シャルドネ

の木では、Pesticide を使わなかったもので、ぶどうの葉の裏に白い小さな虫が付いて葉の骨格が壊されてくる病気にかかりかかっているとのこと (写真19~22)。ワイナリーの創立は1936年で、1978年に Mondavi が買収した。80エーカーの広さという大スケールのワイナリーは、ちょうど石油コンビナートを思わせた。ブドウ畑は、1600エーカーとのこと。作業員は全体で240人という。写真23は、B.Alderson 氏の自宅。Sacramento のレストランで夕食をご馳走になった (写真24)。

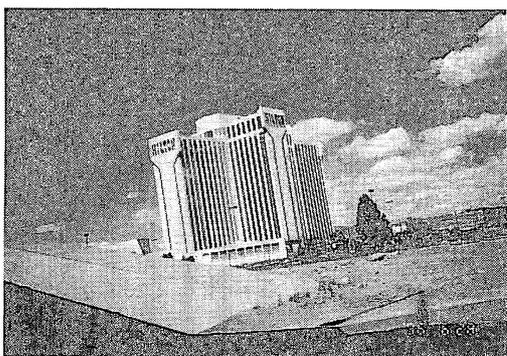


写真1

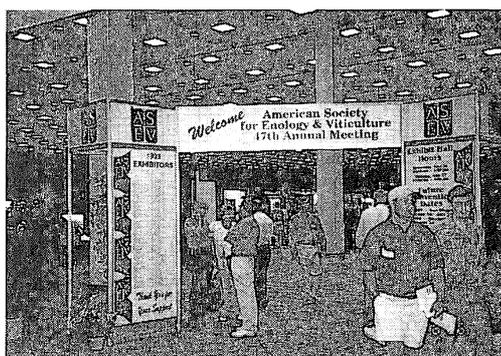


写真3

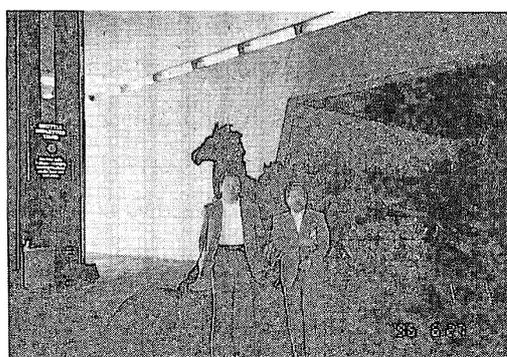


写真2

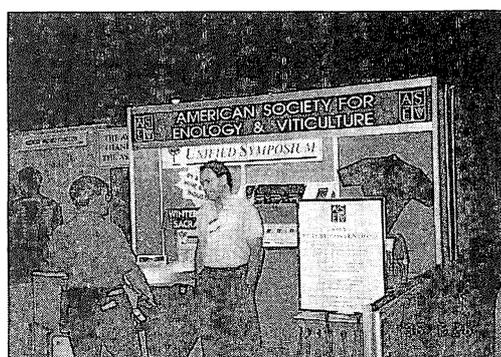


写真4



写真5

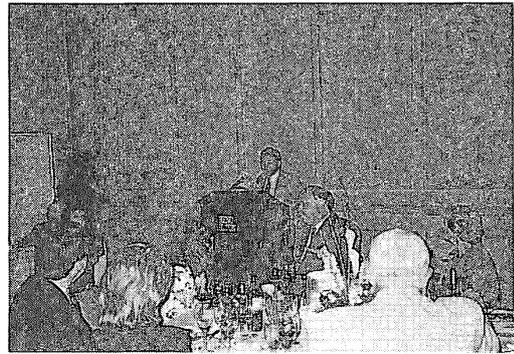


写真9

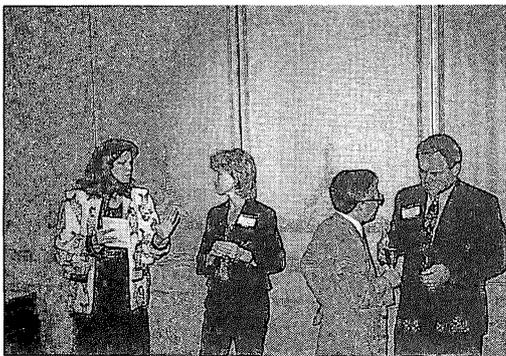


写真6



写真10



写真7

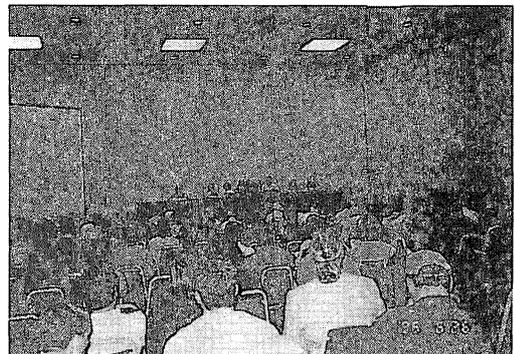


写真11

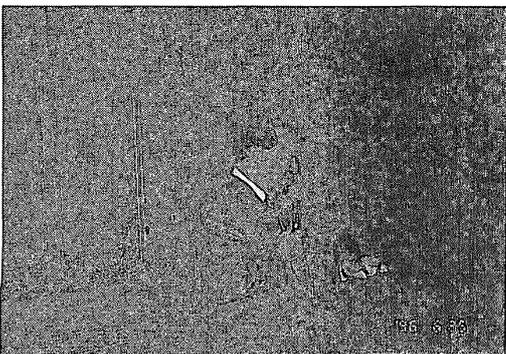


写真8



写真12

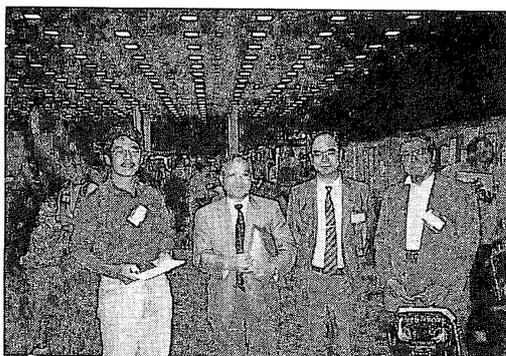


写真13

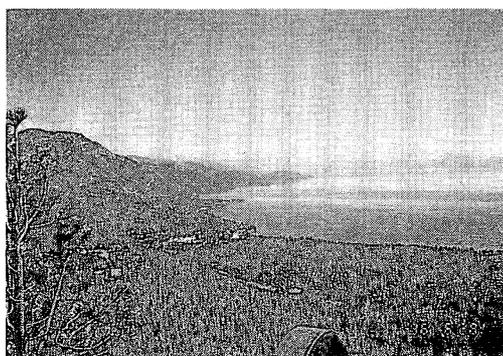


写真17



写真14

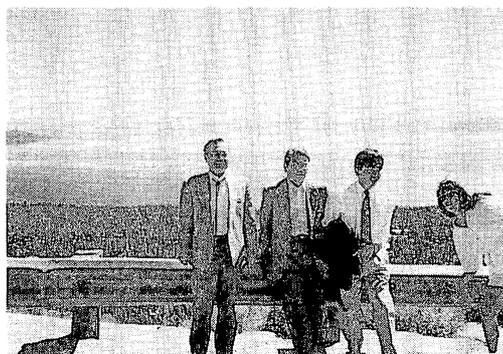


写真18

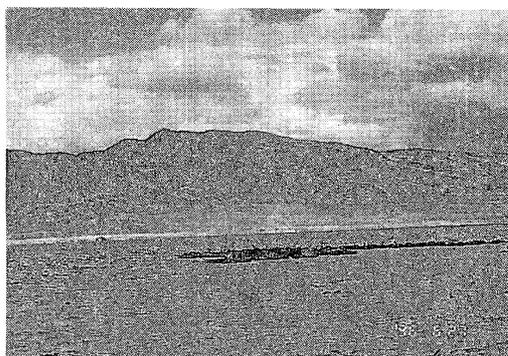


写真15

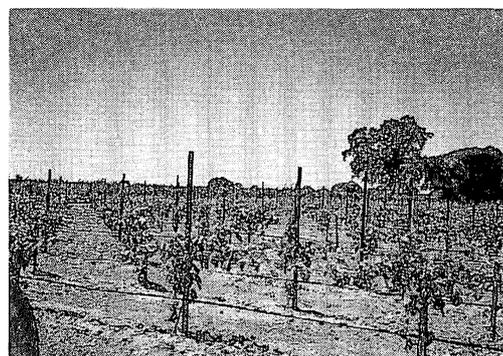


写真19

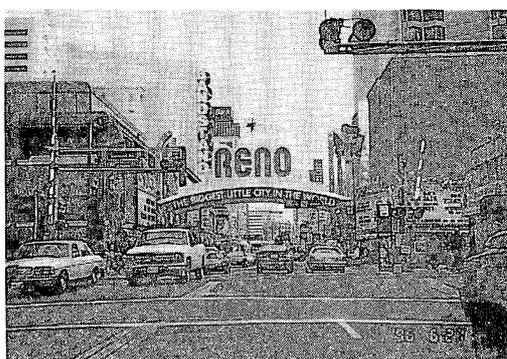


写真16

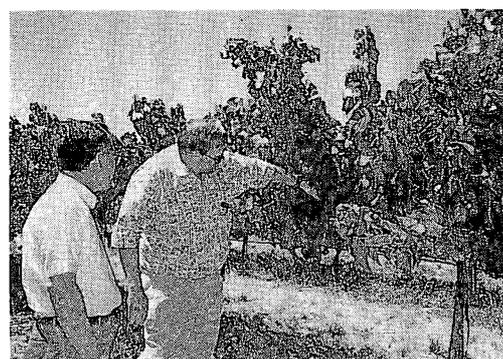


写真20

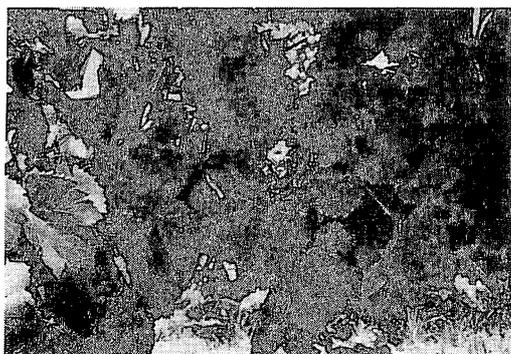


写真21

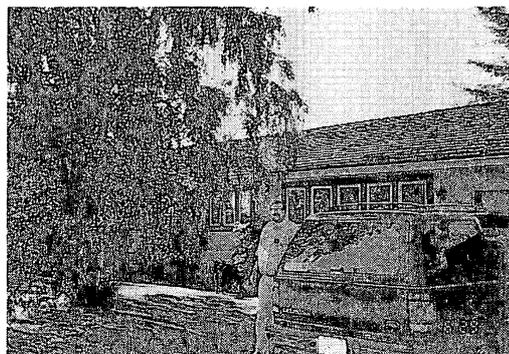


写真23

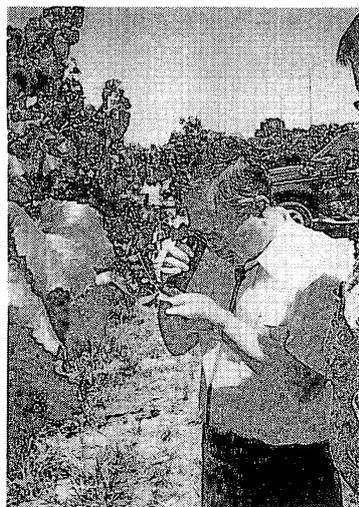


写真22



写真24